

# 白藍塾オリジナル

## 2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●早稲田・スポーツ科学部

今年度は、課題文や表の代わりにいくつかの条件が付き、それを踏まえて論じるという、これまでにないタイプの出題になっている。とまどう人も多かったと思うが、問題そのものは、「イエス・ノーを明確にした上で、反対意見を考慮して自分の意見を論じる」という小論文の基本ができていれば、比較的簡単に書ける内容だ。

第一部で、問題提起の代わりに、「私は、高校における運動部の活動の現状を改革すべきだと考える」と結論から始め、あとは通常の四部構成に従ってまとめればよい。

「否定側の論点」がすでに示されているので、それに反論するつもりで考えると書きやすいだろう。否定側の論点は、「高校生の心身の発育に役立つ」「競技力向上や生徒の一体感が醸成される」というものなので、それらにどう反論すべきかを考えるとよい。

たとえば、「運動部の活動が行き過ぎると、学習時間が削られたり、まだ発育途上の高校生の身体に負担をかける恐れがある。それでは、かえって高校生の心身の発育を妨げてしまう」

「学校の部活動はあくまで教育目的であるべきで、競技力の向上をめざすのは本末転倒」「生徒の一体感の醸成を目的とすると、部活動を生徒に強要することになって、生徒の選択の自由や自発性を損なう恐れがある」などの論が考えられる。運動部の朝練が問題になっている現状などを踏まえて論じると、説得力も増すはずだ。

直接スポーツがテーマになっているわけではないが、スポーツと教育の関係などを考えたことのある受験生にとっては、それほど難しい問題ではないはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>